

オーロラⅡ (トルコ投資ファンド)

運用報告書(全体版)

第26期(決算日2022年7月11日)

作成対象期間(2021年7月13日～2022年7月11日)

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。
当作成対象期間の運用状況等についてご報告申し上げます。
今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

●当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／株式
信託期間	1996年9月12日から2024年7月12日までです。
運用方針	信託財産の成長をはかることを目的として、積極的な運用を行ないます。
主な投資対象	トルコの企業の株式(DR(預託証書)を含みます。)を主要投資対象とします。
主な投資制限	株式への投資割合には制限を設けません。
分配方針	毎決算時に、繰越分を含めた利子・配当収入と売買益等から基準価額の水準等を勘案して分配します。留保益の運用については、元本部分と同一の運用を行ないます。

野村アセットマネジメント

東京都江東区豊洲二丁目2番1号



サポートダイヤル 0120-753104
(受付時間) 営業日の午前9時～午後5時

ホームページ <http://www.nomura-am.co.jp/>

○最近５期の運用実績

決 算 期	基 準 (分配落)	価 額			参 考 指 数		株 組 入 比 率	株 先 物 比 率	投 資 信 託 証 組 入 比 率	純 資 産 額
		税 込 分 配	み 期 騰 落	中 率	期 騰 落	中 率				
	円	円	%	%	%	%	%	%	%	百万円
22期(2018年7月11日)	9,504	0	△28.8	△29.2	96.9	—	—	—	—	2,713
23期(2019年7月11日)	8,268	0	△13.0	△17.3	94.3	—	—	—	—	2,162
24期(2020年7月13日)	7,624	0	△7.8	△4.7	95.3	—	—	—	—	1,400
25期(2021年7月12日)	8,336	0	9.3	△1.8	91.8	—	—	—	—	970
26期(2022年7月11日)	8,964	0	7.5	9.7	90.9	—	—	—	—	877

*株式先物比率は買い建て比率－売り建て比率。

*参考指数はBIST100指数（円換算ベース）です。
 *参考指数（＝BIST100指数（円換算ベース））は、BIST100指数（現地通貨ベース）をもとに、当社が独自に円換算したものです。
 算出にあたっては、基準価額への反映を考慮して、営業日前日の指数値を営業日当日のトルコリラ為替レート（対顧客電信売買相場仲値）で円換算しております。

○当期中の基準価額と市況等の推移

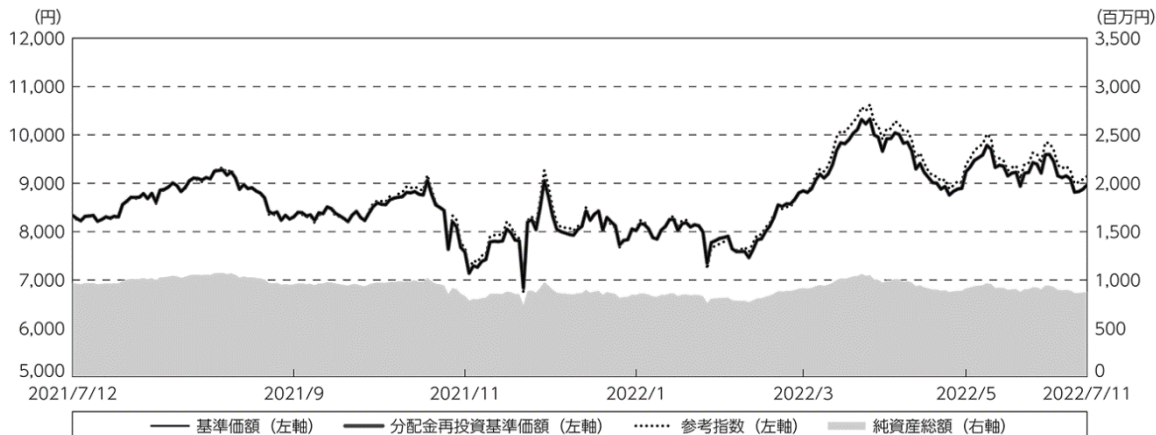
年 月 日	基 準	価 額		参 考 指 数		株 組 入 比 率	株 先 物 比 率	投 資 信 託 証 組 入 比 率
		騰 落	率	騰 落	率			
(期 首)	円	%	%	%	%	%	%	%
2021年7月12日	8,336	—	—	—	—	91.8	—	—
7月末	8,561	2.7	2.7	92.6	—	—	—	—
8月末	9,093	9.1	9.0	93.5	—	—	—	—
9月末	8,305	△0.4	△0.5	93.6	—	—	—	—
10月末	8,567	2.8	3.5	92.7	—	—	—	—
11月末	7,578	△9.1	△8.0	91.1	—	—	—	—
12月末	8,048	△3.5	△1.8	91.1	—	—	—	—
2022年1月末	8,023	△3.8	△3.5	90.3	—	—	—	—
2月末	7,773	△6.8	△8.0	91.4	—	—	—	—
3月末	8,842	6.1	6.2	90.9	—	—	—	—
4月末	9,918	19.0	21.5	92.1	—	—	—	—
5月末	9,242	10.9	12.7	91.5	—	—	—	—
6月末	9,153	9.8	12.5	90.7	—	—	—	—
(期 末)								
2022年7月11日	8,964	7.5	9.7	90.9	—	—	—	—

*騰落率は期首比です。

*株式先物比率は買い建て比率－売り建て比率。

◎運用経過

○期中の基準価額等の推移



期 首：8,336円

期 末：8,964円（既払分配金（税込み）：0円）

騰落率：7.5%（分配金再投資ベース）

（注）分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。作成期首（2021年7月12日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

（注）分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。

（注）参考指数は、BIST100指数（円換算ベース）です。参考指数は、作成期首（2021年7月12日）の値が基準価額と同一となるように計算しております。

（注）上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

- （上 昇）大手企業が堅調な決算を発表したこと、新型コロナウイルスのワクチン接種の進展が好感されたこと、トルコ・リラが上昇したこと
- （下 落）トルコ中央銀行が足元のインフレ率が上昇傾向にあるにもかかわらず利下げに踏み切ったこと、トルコ株式市場が上昇したもののトルコ・リラが急落したこと、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が嫌気されたこと
- （上 昇）米ドルやユーロに対するトルコ・リラ安の恩恵が期待できる輸出株や素材株が上昇したこと、外国人投資家による買い戻しが好感されたこと、日銀が緩やかな金融政策を維持したことなどを背景に、トルコ・リラが対円で上昇したこと
- （下 落）インフレ率の上昇や経常収支の悪化を受けてトルコ・リラが下落したこと、グローバルな景気減速懸念を背景に鉄鋼株が下落したこと、トルコ・リラ建ての融資規制の対象になることが懸念された一部の輸出株が下落したこと

○投資環境

トルコ株式市場は、期初、大手企業の堅調な決算発表、トルコ・リラの安定化や新型コロナウイルスのワクチン接種の進展などが好感され、上昇して始まり、その後も自社株取得計画の発表が追い風となった大手コングロマリット（複合企業）株などを中心に上昇しました。2021年9月に足元のインフレ率が上昇傾向にあるにもかかわらず、トルコ中央銀行が市場予想に反し利下げに踏み切ったことなどが嫌気され、下落し、その後一進一退の動きとなりました。10月にも中央銀行が引き続き市場予想を上回る利下げを発表しましたが、利下げに伴うトルコ・リラ安の恩恵を受けると見られる輸出株を中心に株式市場は反発しました。11月にも利下げが続き、トルコ・リラ安の加速を受けて、輸出株が一段高となり、株式市場の上昇をけん引しました。

12月中旬にはトルコ・リラの急落を背景とした金融危機の懸念が高まり、株式市場は下落に転じました。その後、エルドアン大統領が通貨防衛のために為替変動による損失が補償されるトルコ・リラ建ての新たな預金スキームを発表したことを受けて、トルコ・リラは回復しましたが、これに伴い輸出株の売りが加速しました。2022年1月以降は、大手企業の業績期待が下支えとなり、底堅く推移したものの、2月下旬にはロシアによるウクライナへの軍事侵攻を受け急落しました。その後、ロシアとウクライナとの停戦に向け、トルコが積極的な外交姿勢を示すことで地政学的に重要な役割を果たす中、株式市場は反発し、トルコ・リラ安が業績に追い風になるとみられる輸出株や素材株を中心に上昇しました。外国人投資家による買い戻しなども好感されました。

5月以降は、引き続きトルコ・リラ安の恩恵を受けるとみられる輸出株やエネルギー株、素材株を中心に上昇しましたが、その後、グローバルな景気減速懸念が強まる中、鉄鋼株を中心に下落に転じました。また、一定の規模以上の外貨現金資産を保有する企業に対するトルコ・リラ建ての融資規制が発表され、規制の対象になることが懸念された一部の輸出株が下落しましたが、当期においてトルコ株式市場は、現地通貨ベースで見て大幅上昇となりました。

為替市場では、期初、輸出の拡大による経常収支改善への期待や中央銀行が金融引き締め策を維持すると表明したことを受けて、トルコ・リラは堅調に推移して始まりました。しかしその後、インフレ率が上昇しているにもかかわらず、中央銀行が利下げ政策を取ったことから、政府が通貨安を容認しているとの思惑が広がりトルコ・リラは急落しました。2021年12月に中央銀行の追加利下げを受けて、トルコ・リラ安が一段と加速しましたが、エルドアン大統領が外貨需要を低下させるために新たな預金スキームを発表したことで反発しました。その後は、金融政策が依然として緩やかであることやロシアによるウクライナへの軍事侵攻などを受けて再び下落しました。2022年4月以降、日銀が緩やかな金融政策を維持したことなどを背景に、対円で上昇する場面もありましたが、トルコのインフレ率の上昇や経常収支の悪化が懸念され、当期においてトルコ・リラは対円で大幅に下落しました。

○当ファンドのポートフォリオ

・株式組入比率

原則として高位を維持するという運用方針に基づいて運用を行ない、組入比率はおおむね高位を維持しました。

・期中の主な動き

- (1) 業種配分では、期初においては、生活必需品、一般消費財・サービスなどをオーバーウェイト（参考指数に比べ高めの投資比率）とし、素材、資本財・サービスなどをアンダーウェイト（参考指数に比べ低めの投資比率）としました。期末においても、生活必需品、一般消費財・サービスなどをオーバーウェイトとし、素材、資本財・サービスなどをアンダーウェイトとしました。
- (2) 個別銘柄では、エレグリ・デミル・ベ・セリク・ファブリカラル（金属・鉱業）、コカコーラ・アイスセック（飲料）、BIMビシュレジッキ・マーザラージ（食品・生活必需品小売り）などを上位に組み入れました。

○当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

コメント・グラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。

参考指数（BIST100指数（円換算ベース））が9.7%の上昇となったのに対して、基準価額は7.5%の上昇となりました。

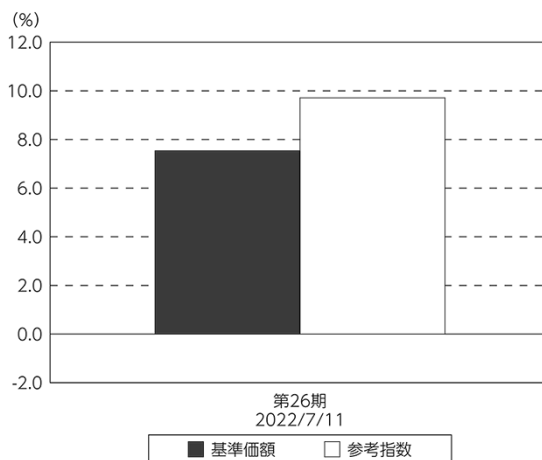
（主なプラス要因）

- ①業種配分で、株価騰落率が参考指数を下回ったコミュニケーション・サービスをアンダーウェイトとしたこと
- ②個別銘柄で、株価騰落率が参考指数を下回った無線通信サービス株をアンダーウェイトとしたことや、株価騰落率が参考指数を上回った繊維・アパレル・贅沢品株をオーバーウェイトとしたこと

（主なマイナス要因）

- ①業種配分で、株価騰落率が参考指数を下回った生活必需品をオーバーウェイトとしたこと
- ②個別銘柄で、株価騰落率が参考指数を下回った保険株や食品・生活必需品小売り株をオーバーウェイトとしたこと

基準価額と参考指数の対比（期別騰落率）



（注）基準価額の騰落率は分配金込みです。

（注）参考指数は、BIST100指数（円換算ベース）です。

◎分配金

基準価額水準などを勘案して、大変遺憾ながら今期の収益分配は見送らせていただきました。留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行ないます。

○分配原資の内訳

（単位：円、1 万口当たり・税込み）

項 目	第26期
	2021年7月13日～ 2022年7月11日
当期分配金	—
（対基準価額比率）	— %
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	8,594

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

◎今後の運用方針

・投資環境

- （１）トルコ経済については、トルコ・リラの下落は輸入物価の上昇を通じてインフレ率の更なる上昇につながり、それがトルコ・リラの米ドルに対する下落に拍車をかける悪循環に陥っているとみています。加えて、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻を背景とした原油や食料品の価格高騰がインフレ率の上昇や経常収支のさらなる悪化に繋がっています。こうした中、トルコ・リラ安を見込んで、トルコ・リラ建ての融資を外貨で運用する動きを抑制するために、当局が一定規模以上に外貨現金資産を保有する企業に対してトルコ・リラ建ての融資を禁止しました。この資本規制の導入により企業の投機的な外貨需要が抑制されるとみられる一方、輸出企業の設備投資など必要な資金調達にどのような影響が表れるか注視する必要があると考えます。
- （２）トルコ株式市場については、トルコ・リラ安の悪影響を回避する上で輸出株や売り上げが商品市況に連動する資源株が魅力的な投資対象になると考えており、こうした株式を中心とした国内投資家の買い意欲が市場を下支えする可能性があると考えています。しかし、市場全体での持続的な株価上昇には、トルコの金融政策への信頼回復が必要になると考えます。

・投資方針

業種配分では、安定した業績の改善が見込まれる生活必需品や中長期的なトルコの経済成長の恩恵を受けるとみられる一般消費財・サービスを引き続きオーバーウェイトとする方針です。

個別銘柄については、競争力のあるビジネスモデルや独自の成長要因を有し、中長期的に比較的安定した収益の成長が見込まれる銘柄に選別的に投資する考えです。

今後も基準価額の向上に努めて参りますので、引き続きご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○ 1 万口当たりの費用明細

（2021年 7 月13日～2022年 7 月11日）

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 190	% 2.216	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(91)	(1.064)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等
(販 売 会 社)	(90)	(1.042)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等
(受 託 会 社)	(9)	(0.110)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等
(b) 売 買 委 託 手 数 料	2	0.026	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株 式)	(2)	(0.026)	
(c) そ の 他 費 用	20	0.233	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(20)	(0.229)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0.001)	信託事務の処理に要するその他の諸費用
合 計	212	2.475	
期中の平均基準価額は、8,591円です。			

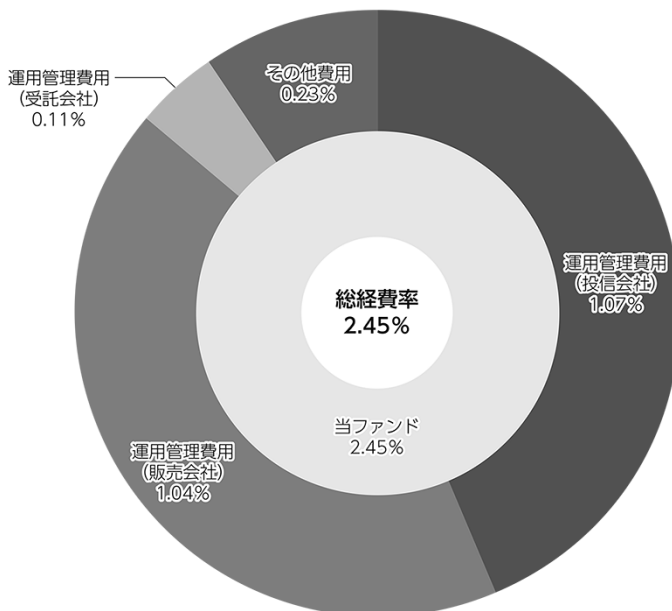
* 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

* 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

* 各比率は 1 万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第 3 位未満は四捨五入してあります。

（参考情報）**○総経費率**

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.45%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2021年7月13日～2022年7月11日)

株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
外 国	イギリス	百株 —	千英ポンド —	百株 1,179	千英ポンド 85
	トルコ	6,355 (5,992)	千トルコリラ 13,966 (—)	21,143	千トルコリラ 28,671

*金額は受け渡し代金。

*単位未満は切り捨て。

* () 内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

○株式売買比率

(2021年7月13日～2022年7月11日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	415,268千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	845,886千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.49

* (b) は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2021年7月13日～2022年7月11日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

（2022年7月11日現在）

外国株式

銘柄	株数	株数	当 期 末		業 種 等
			評 価 額	評 価 額	
			外貨建金額	邦貨換算金額	
			千英ポンド	千円	
（イギリス）	百株	百株	—	—	
DP EURASIA NV	1,179	—	—	—	ホテル・レストラン・レジャー
小 計	株 数 ・ 金 額	—	—	—	
	銘 柄 数 < 比 率 >	1	—	< — % >	
（トルコ）			千トルコリラ		
AKBANK T. A. S	8,705	4,236	3,427	27,107	銀行
AKSA AKRILIK KIMYA SANAYII	620	477	2,823	22,331	繊維・アパレル・贅沢品
AKSIGORTA	2,113	4,226	1,081	8,557	保険
ANADOLU ANONIM TURK SIGORTA	1,199	—	—	—	保険
ANADOLU HAYAT EMEKLILIK	741	741	920	7,279	保険
ASELSAN ELEKTRONIK SANAYI	1,085	933	2,072	16,393	航空宇宙・防衛
BRISA BRIDGESTONE SABANCI LASTIK SAN VE	—	226	852	6,743	自動車部品
CIMSA CIMENTO SANAYI VE TIC	311	409	1,369	10,833	建設資材
EGE SERAMIK SANAYI VE TICARE	—	289	778	6,160	建設関連製品
EREGLI DEMIR VE CELIK FABRIK	4,350	3,883	10,298	81,463	金属・鉱業
FORD OTOMOTIVE SANAYI AS	286	295	8,101	64,083	自動車
INDEKS BILGISAYAR SIS TEMLERI MUHENDISLI	2,283	2,657	2,104	16,647	電子装置・機器・部品
KOC HLDGS	859	1,034	3,683	29,136	コングロマリット
KORDSA TEKNİK TEKSTİL A. S.	497	590	2,996	23,704	自動車部品
LOGO YAZILIM SANAYI VE TICAR	321	454	1,875	14,837	ソフトウェア
TURK SISE VE CAM FABRIKALARI AS	5,575	3,408	7,334	58,019	コングロマリット
TURK HAVA YOLLARI AO	987	868	4,304	34,044	旅客航空輸送業
TURK TRAKTOR VE ZIRAAT MAKIN	30	54	1,191	9,426	機械
TURKCELL ILETISIM HIZMET AS	1,302	—	—	—	無線通信サービス
TURKIYE GARANTI BANKASI	4,533	1,585	2,231	17,653	銀行
TURKIYE IS BANKASI AS-C	2,234	1,004	451	3,567	銀行
TUPRAS-TURKIYE PETROL RAFINE	221	228	5,559	43,977	石油・ガス・消耗燃料
YAPI VE KREDI BANKASI A. S.	9,333	6,386	2,720	21,518	銀行
HACI OMER SABANCI HOLDING	—	2,626	4,905	38,805	銀行
COCA-COLA ICECEK AS	799	706	9,917	78,446	飲料
BIM BIRLESIK MAGAZALAR AS	1,411	1,077	9,200	72,776	食品・生活必需品小売り
VESTEL BEYAZ ESYA SANAYI VE	467	2,091	1,869	14,790	家庭用耐久財
TAV HAVAILIMANLARI HOLDING AS	544	476	2,412	19,081	運送インフラ
KOZA ALTIN ISLETMELERI AS	132	113	1,874	14,827	金属・鉱業
LOKMAN HEKIM ENGURUSAG SAGLI	—	610	1,083	8,571	ヘルスケア・プロバイダー/ヘルスケア・サービス
MAVI GIYIM SANAYI VE TICA-B	184	334	1,804	14,271	繊維・アパレル・贅沢品
AGESA HAYAT VE EMEKLILIK AS	480	789	1,616	12,786	保険
小 計	株 数 ・ 金 額	51,614	42,818	100,865	797,846
	銘 柄 数 < 比 率 >	28	30	—	< 90.9 % >
合 計	株 数 ・ 金 額	52,794	42,818	—	797,846
	銘 柄 数 < 比 率 >	29	30	—	< 90.9 % >

* 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

* 邦貨換算金額欄の〈 〉内は、純資産総額に対する各国別株式評価額の比率。

* 株数・評価額の単位未満は切り捨て。

* 銘柄コード等の変更があった銘柄は、別銘柄として掲載しております。

○投資信託財産の構成

(2022年7月11日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
株式	797,846	89.4
コール・ローン等、その他	94,232	10.6
投資信託財産総額	892,078	100.0

*金額の単位未満は切り捨て。
 *当期末における外貨建純資産（844,254千円）の投資信託財産総額（892,078千円）に対する比率は94.6%です。
 *外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。1米ドル=136.47円、1トルコリラ=7.91円、1ユーロ=138.59円。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況（2022年7月11日現在）

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	892,078,362
コール・ローン等	94,232,320
株式(評価額)	797,846,042
(B) 負債	14,180,857
未払金	2,635,509
未払解約金	1,636,574
未払信託報酬	9,894,137
未払利息	9
その他未払費用	14,628
(C) 純資産総額(A－B)	877,897,505
元本	979,335,181
次期繰越損益金	△101,437,676
(D) 受益権総口数	979,335,181口
1万口当たり基準価額(C／D)	8,964円

(注) 期首元本額は1,164,205,918円、期中追加設定元本額は37,557,198円、期中一部解約元本額は222,427,935円、1口当たり純資産額は0.8964円です。

○損益の状況（2021年7月13日～2022年7月11日）

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	32,310,795
受取配当金	32,323,484
受取利息	12,251
支払利息	△ 24,940
(B) 有価証券売買損益	50,166,052
売買益	377,748,085
売買損	△327,582,033
(C) 信託報酬等	△ 22,710,045
(D) 当期損益金(A＋B＋C)	59,766,802
(E) 前期繰越損益金	△315,452,308
(F) 追加信託差損益金	154,247,830
(配当等相当額)	(772,829,599)
(売買損益相当額)	(△618,581,769)
(G) 計(D＋E＋F)	△101,437,676
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G＋H)	△101,437,676
追加信託差損益金	154,247,830
(配当等相当額)	(772,829,599)
(売買損益相当額)	(△618,581,769)
分配準備積立金	68,909,973
繰越損益金	△324,595,479

*損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
 *損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
 *損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

（注）分配金の計算過程（2021年7月13日～2022年7月11日）は以下の通りです。

項 目	当 期
	2021年7月13日～ 2022年7月11日
a. 配当等収益(経費控除後)	23,412,999円
b. 有価証券売却等損益(経費控除後・繰越欠損金補填後)	0円
c. 信託約款に定める収益調整金	772,829,599円
d. 信託約款に定める分配準備積立金	45,496,974円
e. 分配対象収益(a+b+c+d)	841,739,572円
f. 分配対象収益(1万口当たり)	8,594円
g. 分配金	0円
h. 分配金(1万口当たり)	0円

○分配金のお知らせ

1万口当たり分配金（税込み）	0円
----------------	----

※分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合、分配金は全額普通分配金となります。
※分配前の基準価額が個別元本を上回り、分配後の基準価額が個別元本を下回る場合、分配金は個別元本を上回る部分が普通分配金、下回る部分が元本払戻金（特別分配金）となります。
※分配前の基準価額が個別元本と同額または下回る場合、分配金は全額元本払戻金（特別分配金）となります。

○お知らせ

該当事項はございません。